

以上何れの攻勢に關せず敵は大東島の如き小離島に足場を求むることなく一舉に南西諸島中大根據地たるべき沖繩本島或は宮古島を直接攻略するを有利とす  
特に(1)(2)並に一部の省略戦法を採る(1)の場合に於て然り

### 第二期（捷號作戰準備）

一、不落と信ぜられしマリアナ線が六月下旬以降崩壊し始むるや大本營は急遽南西諸島臺灣比島等の増強を開始せり就中殆無防備状態に在りし我が南西諸島の強化に狂奔し且之を優先とせるものの如し  
斯くて七月中旬獨立混成第十五聯隊を沖繩に空輸せしを始めとし戦艦大和、武藏以下の海軍艦艇をも動員し第九、第二十四、第六十二師團を沖繩に第二十八師團（歩兵第三十六聯隊欠）獨立混成第四十五、第五十九、第六十旅團を宮古、石垣に獨立混成第六十四旅團を徳之島に歩兵第三十六聯隊を大東島に夫々輸送展開せり

是等兵團の大部は七、八月の間に其の一部は九月末頃迄に夫々無事大本營の計畫決定せし各島嶼に展開を了せり其の概要左の如し  
奄美守備隊

獨立混成第六十四旅團長高田少將を長とし北緯二十八度十分より與論島に亘る奄美群島を作戰地域とし守備兵力は獨立混成第六十四旅團（獨立混成第二十一、第二十二聯隊）重砲兵第六聯隊、船舶工兵一中隊、水上勤務一中隊を基幹とす兵力配置の概要左の如し

喜界島 獨立混成第二十二聯隊の一大隊

奄美大島 重砲兵第六聯隊の主力特設警備四ヶ中隊

沖永良部島

獨立混成第二十一聯隊の一大隊（一中隊欠）

與論島

徳之島 奄美守備隊の主力

大東島守備隊

歩兵第三十六聯隊長を長とし南、北、沖大東島を作戰地域とし

守備兵力は歩兵第三十六聯隊、大東島支隊、獨立速射砲二中隊、特設警備一中隊を基幹とす兵力配備の概要左の如し

北大東島 歩兵第三十六聯隊の一大隊

沖大東島 大東島支隊の一中隊

南大東島 大東島守備隊の主力

沖繩本島

展開兵力の概要左の如く其の兵團部署は後述す

第九師團

第二十四師團

第六十二師團

獨立混成第四十四旅團

獨立機關銃四ヶ大隊

獨立速射砲三ヶ大隊と二中隊

戰車第二十七聯隊（一中隊欠）

軍砲兵隊

第五砲兵團司令部

野戰重砲兵第一聯隊（一大隊欠）

同 第二十三聯隊

獨立重砲兵第百大隊

中迫撃第四、第五大隊

輕迫撃八ヶ中隊

獨立工兵第六十六大隊

軍防空隊

第二十一野戰高射砲隊司令部

獨立高射砲第二十七大隊

野戰高射砲第七十九乃至第八十一大隊

高射機關砲第百三乃至第百五大隊

重砲兵第七聯隊

軍船舶團

第十一船舶團司令部

第五基地隊司令部  
船舶工兵第二十三、第二十六聯隊（各一中隊欠）  
海上挺進第一乃至第三、第二十六乃至第二十九戰隊  
海上挺進基地第一乃至第三、第二十六乃至第二十九大隊  
第三、第四遊撃隊  
電信第三十六聯隊  
第四十九兵站地區隊本部  
第二野戦築城隊  
第三十二軍防衛築城隊  
要塞建築勤務二ヶ中隊  
特設警備三ヶ中隊  
同 工兵三ヶ大隊  
野戦作井二ヶ中隊  
獨立自動車二ヶ中隊  
第三十二軍兵器勤務隊

同 野戦兵器廠  
同 野戦貨物廠  
陸上勤務二中隊  
水上勤務二中隊  
第二十七野戦防疫給水部  
沖繩陸軍病院  
第一船舶輸送司令部沖繩支部  
其の他省略  
右の外第十九航空地區司令官指揮下の飛行場關係部隊は飛行場大隊四同中隊一等なり  
先島集團  
第二十八師團長を集團長とし作戦地域は宮古島（含む）より南東經百二十二度三十分に至る間とし其の展開兵力の概要左の如し  
宮古島

第二十八師團（歩兵第三十六聯隊欠）

獨立混成第五十九旅團

同 第六十旅團

戰車第二十七聯隊の一中隊

獨立機關銃一ヶ大隊

獨立速射砲一大隊と二中隊

野戰重砲兵第一聯隊の一大隊

海上挺進第四、第三十戰隊

同 基地第四、第三十大隊

船舶工兵一中隊

水上勤務一中隊

特設警備二中隊

右の外後方諸部隊飛行場關係部隊若干あり

石 垣 島

獨立混成第四十五旅團

特別警備一中隊

後方部隊飛行場關係部隊若干

西 表 島

重砲兵第八聯隊（後に主力を以て石垣島に轉移す）  
第五遊撃隊

兵力展開に關する機密作戰日誌

以上諸島嶼に對する配置兵力の決定は大本營の計畫に基くものにして至る處所要に充たざる兵力を單に氣休め式に分散配置せる嫌ひあり蓋し太平洋諸島嶼の現在迄の戰例に依れば一、二ヶ師團以下の兵力の島嶼守備隊は一週間以内に組織的抵抗力を粉碎せられればなり

大東島の守備兵力の如きも予は作戰主任參謀として第一期作戰準備敵判斷の項に記述せる意見に基き過大なる兵力を支分するに反對せるも一般の空氣は之に同意せざりき熟々考ふるに我が南西諸島の兵力配置は太平洋各島嶼基と同様戰略戰術上の基



本的洞察に欠くるもの頗る多し之が主因は「太平洋作戰に於ける決定戦力は航空部隊なり」との現實と理想とを誤斷せる戰略思想に起因するものなるべく更には我が地上作戰の傳統的用兵思想が精神力や驅引的運用の効果を過度に重視し科學的檢討に欠くる處大なりしたためならん

2. 大本營の南西諸島に對する兵力配置は大本營附長少將（後に第三十二軍參謀長）の現地偵察報告を相當參考とせる點あり同少將の意見は當初大本營が圖上に於て豫定せし兵力より遙かに強大なる兵力を必要とせしが實際の決定兵力は概ね同少將の意見に近きものなりき

### 二 捷 號 作 戰

捷號作戰計畫はマリアナ線失陥後の狀態に對處し大本營に於て策定せるものにして本州北部より比島に亘る間敵の上陸方面を推定して作戰準備を進め一度敵の上陸するや所在陸軍の全力並に日本海空軍の主力を以て之を撃滅せんとする計畫にして敵が南西諸島

に上陸する場合を捷號作戰と稱す

捷三號作戰計畫は南西諸島増加兵團の來著に伴ひ逐次其の輪廓を明にせり計畫の主体は航空作戰にして之を概要すれば左の如し  
1. 陸海空軍の主力（在本土、滿鮮、支那、臺灣、比島方面の空軍を結集使用す機數は概ね千五百機にして敵機動艦隊の推定保有機數に區敵す）を以て敵をその上陸前に撃滅す

2. 聯合艦隊は其の全力を以て作戰に参加す

南方基地より我が南西諸島の決戦場に進出する迄には捷三號作戰發令より約一週間を要す

3. 第三十二軍は所在島嶼守備隊を以て我が海空軍及聯合艦隊の撃破せる敵上陸軍を掃蕩す

地上兵力決戦予備とし上海に第一師團、臺灣に機動旅團一を配置す

三 大本營の捷三號作戰計畫に基く第三十二軍主力の沖縄島に於ける作戰計畫の概要左の如し

方針

有力なる一部を以て伊江島及本部半島の確保に勉むると共に主力を以て沖縄本島半部を占領し同方面に上陸する敵に對し隨時隨處に兵力を機動集中し海空軍主力と協同し敵をその上陸海岸地帯に於て撃滅す

要領  
兵團部署 別紙要圖第一其の一乃至其の四の如し

本計畫の主眼とする點左の如し

1. 敵が沖縄本島に上陸する場合は五、六ヶ師團乃至十ヶ師團を使用するならん
2. 右兵力は我が海空軍主力の攻撃に依り上陸前相當大なる損害を受くべく彼我地上戦力比は必ずしも不利とならざる公算あり  
(一軍としては海空軍主力の攻撃成果に對しては過去の戦例に鑑み過大なる期待は寄せざりき)
3. 敵が海岸地帯狹少なる地域に上陸し其の海空軍の確實なる掩護下

に爾後の攻撃の彈據力を蓄積せんとする若干日(從來の戦例に依る)の間こそ我の乘すべき好機なり

4. 我が有力なる砲兵(結集し得る砲兵力は十五糎級以上各種砲合計約百門、輕砲數百門なり)を以て橋頭堡に蜷集する敵の兵員資材に鐵鎚的打撃を加へ得べし

5. 各兵團及主力砲兵の集中機動は相當困難なるべきも夜間の利用交通網の整備並に猛訓練に依り又機動後の戦闘は該方面に事前に準備せる洞窟陣地並に集積軍需品に依り得べく實行可能の成算あり

6. 夜間機動の可能性を信じたる所以は敵の上陸が渡洋作戰的性質を帶び之に協力する敵空軍は全部艦載機なるが故に夜間の發着艦至難なると敵の艦砲射撃も夜間は正確ならざるべしとの判斷に基くものなり

7. 敵は日本軍式掛引きの妙より科學的正確を期する戦法に出づるを例とす從て一時に多方面に眞面目なる上陸を決行せざるべく我が軍の敵上陸點に對する兵力の徹底的集中攻撃可能の算大なり

8. 敵の大規模なる上陸準備砲爆撃に對しては我が兵員資材を洞窟内に收容することに依り其の損害は極減し得る見込あり

四軍の作戰準備上航空地上何れが重點且優先かの問題

第一期作戰準備間は航空の優先重點主義を嚴守せるも第二期に入り地上兵力の大規模増強に伴ひ此の問題は絶えず上下左右の間に紛糾を繼續せり我が空軍が太平洋戰特に最近に於てはマリアナ戰に遺憾なく其の弱体を暴露せる事實は心ある者の齊しく認むるところなり

然るに盲目的なる航空至上主義の夢容易に醒めず航空戦力を以て敵の上陸を撃碎し得べしとする現實遊離の謬想牢固として抜くべくもあらず既に我が航空は決勝的威力を喪失せりと判斷し且島嶼の飛行場は利用價值渺きのみならず反て敵に利用せらるる害大なるを認識しある我が軍首脳部との間に摩擦の生ずるは止むを得ざるところなり

大本營作戰部内に於ても航空主任參謀と地上作戰主任參謀との間

に本問題に關する意思が必しも一致しあらざる點は微妙に第一線軍に反映せり迂餘曲折の後徳之島第二伊江島西、沖繩南、東、宮古東の各飛行場は設定一時中止となれる反面軍隸下の各兵團は急を要する地上戦備を一擲し約一ヶ月間（九月）に亘り所在島嶼の飛行場建設に殆ど全力を傾注するを餘儀なくせしめられたり

五 第二期作戰準備間に於ける一般の状況及敵情判斷

1. 大本營はマリアナ線失陷直後は恰かも敵の銳鋒我が南西諸島に指向せられあるかの如くに狂奔して第三十二軍の戦備強化に努力せしも敵がベルルー、モロタイに進攻して其の主作戰線が依然比島に指向せられあること漸次明瞭となるや再び其の作戰準備の重點は比島方面に移行せり

2. 敵機動艦隊は十月十日其の主力を擧げて我が南西諸島に來襲せり此の攻撃は臺灣沖航空戦及比島作戰と一連の關聯性を有するものにして其の攻撃重點は沖繩本島に指向せられ來襲延機數一千餘攻撃目標は飛行場、港灣、船舶等にして最後に島の首都那覇は



焼夷攻撃を受け数時間にして殆ど焼せり  
損害は船舶に於て甚大なりし外死傷軍約二百市民數百名軍需品  
中糧食は軍の約一ヶ月分、小銃機銃彈合計約七十萬發、小口徑  
砲彈約一萬發等の被害あり  
敵の來襲目的は比島上陸作戰を容易ならしむるにありたるべく  
作戰的に見て軍の物質的損害は輕微にして寧ろ我に取りては空  
襲に對する得難き訓練ともなり又空襲何ものぞの自信力を養成  
するに至大なる效果ありたり  
3. 軍の地上作戰準備は航空作戰準備に約一ヶ月に及ぶ貴重なる時  
日と努力とを捧げる等のことありしも時日の経過と共に著々進  
捗せり  
即ち洞窟築城陣地は日に鞏固を加へ軍及各兵團の企圖する作戰  
方針に基く大規模且徹底せる諸演習は續々實施せられて其の效  
果揚り第二期作戰準備末期に於ては全軍將兵は漸く必勝の信念  
を抱くに至れり

※第二期作戰準備間左の如く軍首腦部の更迭を實施せられた

軍參謀長 舊北川潔水少將 新長 勇少將 (昭和十九年七月十日)

軍司令官 舊渡邊正夫中將 新牛島滿中將 (昭和十九年八月十日)

5. 南西諸島に對する敵攻略企圖の判斷は作戰準備第一期に於ける  
敵情判斷第三項の算愈々濃厚となれり特に敵がベルー、モロ  
タイに進攻せる後に於て然り従つて第三十二軍司令部としては  
敵の南西諸島進攻の待機は昭和二十年春季以降と豫想せり

第三期 (天號作戰準備)

一、十月下旬敵が中部比島レイテに進攻するや大本營は捷號作戰を發  
令し國家總力を擧げて該方面に決戦を求むるに決し勢ひ他方面に  
於ける捷二號以下の作戰準備は其の性格を異にするに至れり

三十一月一日大本營陸軍部作戰課長服部大佐より軍高級參謀八原大  
佐宛左記電報あり

左記

「第三十二軍より一兵團を抽出し比島方面に轉用することに關し協



議致し度きに付十一月三日台北に參集せられたし」  
右電報に應じ八原大佐の携行せし軍司令官の意見書の概要左の如し

意見書要旨

1. 第三十三軍より一兵團を抽出せらるる場合其の沖縄本島たと宮古島たとを問はず其の抽出せられたる島嶼の防衛に關しては軍司令官は責任を負ふ能はず
2. 若し必ず一兵團を抽出せらるるとせば宮古島に在る第二十八師團を可とす
3. 若し軍より一兵團を抽出後更に内地若は滿鮮方面より他の兵團を補填せらるる考ならば後者を比島方面に轉用し前者は其の儘とするを可とす
4. 大本營が國運を堵し比島方面に於て決戦するに決したる以上今や南西諸島の價值は大ならず寧ろ軍司令官以下軍の主力を以て比島決戦に參加せんことを希望す

機密作戰日誌

軍司令官は中途半端なる兵團抽出に關し嚴然たる反對の意志を表明せられ參謀長も同様なり軍高級參謀は此の意見書に據り台北會議に於て極力軍司令官の意圖を奉じ論争せんと決意せしも軍參謀長は此の意見書を提出したる後は多く論議せざるを可とする旨高級參謀を誡めたり

台北會議には第十方面軍參謀長諫山中將以下同軍の主要なる幕僚大本營參謀服部大佐及第三十二軍高級參謀出席せり會議一般の空氣より觀察するに第十方面軍は第三十二軍より一ヶ師團を抽出することに頗る熱心にして其の底意は之を比島決戦に參加せしめんとするにあらずして台灣の増強に使用せんとする企圖明瞭なり

斯かる重大なる會議に軍參謀長たる長少將を招致することなく高級參謀を指名參集せしめたるは剛強なる長少將にしては取扱ひ難きが故に斯かる處置に出でたるものなるべし

### 三、兵力の抽出

台北會議後直ちに大本營は軍より中追撃第四、第五大隊を抽出して比島に送り十五糎追撃砲合計二十四門なり軍が必勝の根基とせる軍砲兵隊を以てする橋頭堡殲滅射撃の威力頼に衰へ落莫の感深し

右兵力の抽出に引續き遂に大本營は沖繩本島より第九、第二十四師團の中何れかの師團を抽出するに決し其の選定は軍に委任せり軍司令官は十一月十七日大本營命令に基き第九師團を轉用するに決せり

其の精神は光輝ある歴史を有する最精銳兵團を皇軍の決戦場に捧げんとするにあり省みれば捷三號作戰の方針に基き凡ゆる惡條件を克服し築城訓練に日夜奮勵し全軍の將兵漸く敵撃滅の自信を深めんとする際相次いで強力なる兵力を抽出せられ一切の計畫努力水泡に歸し危機を目前に控えて殘されたる劣弱なる兵力を以て作戰準備再出發をなさざるべからず沖繩失陷の因實に此の時に始ま

る國軍全般作戰より觀察し大本營及第十方面軍の兵力運用に關する手腕如何は後世史家の批判に委せんのみ

四、軍司令官は十一月二十五日沖繩本島に於ける新作戰計畫を決定せり

本計畫は大本營若は方面軍より新情勢に應ずる第三十二軍に對する新作戰企圖若は新任務を示さることなく軍の基本的任務、殘されたる兵力並に國軍全般の作戰上要求を勘案し軍が獨自其の最善を盡さんとする意圖を以て策定するものなり

マリアナ線の場合と同様比島戰の場合に於ても大本營は決戰の指導に忙殺せられ狀況不利の場合を洞察し遠く萬全を講ずるの餘裕なかりしならん

沖繩本島に於ける新作戰計畫

針

軍は一部を以て極力永く伊江島を保持すると共に主力を以て沖繩島南部島尻地區を占領し島尻地區主防禦陣地帶沿岸に於ては敵の上陸を破摧し北方主陣地帶陸正面に於ては戰略持久を策す敵が北、中飛